

大学生訪韓団 派遣事業の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】日本全国から選抜された大学生等 30 名が 10 月 10 日～18 日まで、今後の日韓間の相互理解と信頼関係の基盤強化に寄与することを主目的として訪韓しました。一行はソウル特別市、釜山広域市を訪問し、各種視察、大学訪問等を通じた同世代との交流、「日韓交流おまつり 2025 in Seoul」への参加等を通じて、韓国に対する理解を深めるとともに、日本の魅力やプログラム中の学び等について SNS 等で発信しました。

【参加者】日本の大学生等 合計 30 名

【訪問地】ソウル特別市 30 名、釜山広域市 30 名

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習事）：

9 月 20 日（土） オリエンテーション（プログラム説明）、講義聴講、

【交流】韓国大学生訪日団参加者とのオンライン意見交換会

■ 派遣プログラム：

10 月 10 日（金） 金浦国際空港から入国、オリエンテーション、【視察】大韓民国歴史博物館、
【視察】昌慶宮

10 月 11 日（土） 【交流】韓国大学生訪日団団員とのグループ別プロジェクト準備及び
フィールドワーク

10 月 12 日（日） 【交流】「日韓交流おまつり 2025 in Seoul」参加

10 月 13 日（月） 【表敬】韓国外交部、【表敬】在大韓民国日本国大使館公報文化院、
【視察】北村韓屋村、青瓦台サランチェ、国立民俗博物館

10 月 14 日（火） 【大学訪問・講義】高麗大学グローバル日本研究院、「アジア共同体の観点から見る高
齢社会の諸問題」【交流】高麗大学学生とキャンパスツアー、K-pop ダンス、【視察】
東大門デザインプラザ（DDP）建築ツアー、【交流】ホームステイ

10 月 15 日（水） ホームステイから再集合、釜山広域市へ移動

10 月 16 日（木） 故 李秀賢（イ・スヒョン）氏墓地参拝・遺族との懇談、【視察】甘川文化村、
【視察】朝鮮通信使歴史館

10 月 17 日（金） 【視察】海雲台ブルーラインパーク、現代モータースタジオ釜山、海東龍宮寺、
ASEAN 文化院、成果報告会

10 月 18 日（土） 金海国際空港から出国

2. 記録写真

	
10月10日【視察】大韓民国歴史博物館	10月11日【交流】韓国大学生訪日団団員とのグループ別プロジェクト準備及びフィールドワーク
	
10月12日【交流】「日韓交流おまつり 2025 in Seoul」参加	10月13日【表敬】韓国外交部
	
10月14日【大学訪問・講義】高麗大学グローバル日本研究院	10月15日【交流】ホームステイ
	
10月16日 故 李秀賢（イ・スヒョン）氏墓地参拝	10月17日【視察】現代モータースタジオ釜山

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 日本 大学生

韓国外交部や在韓日本大使館を訪問し、国際社会における韓国の役割や外交の重要性について学ぶ貴重な機会となった。特に印象に残ったのは、「高位級的外交だけでなく、民間レベルでの交流や協力も同じくらい重要だ」というお話だ。互いの価値観や考え方をすぐに変えることはできないが、だからこそ対話を続け、共通の課題に協力して取り組む姿勢が求められているのだと感じた。

◆ 日本 大学生

現地の学生や市民と直接交流したことで「違いを超えてつながること」の大切さを強く感じた。日韓交流おまつりやフィールドワークでは、言葉や文化が違って笑顔でつながる瞬間があり、「私たちは違うけれど、同じ未来を見ている」と感じた。この経験を通して、交流とは特別なイベントではなく日々の小さな関心や行動から生まれるものだと思った。

◆ 日本 大学生

訪韓中、最も心に残ったのは新大久保駅で日本人を助けようとして亡くなったイ・スヒョンさんの話を聞いた時であった。彼の行動は、国籍を超えた人間としての勇気と優しさを示している。日本人を救うために命を懸けたという事実に胸が熱くなった。この話を聞いたとき、私は「国」という枠にとらわれず、「人と人」として向き合うことの大切さを改めて感じた。報道では「日韓関係」として政治的な対立が語られることが多いが、その陰には互いを思いやり、支え合おうとする多くの人々の姿がある。イ・スヒョンさんの勇気ある行動は、両国の関係を語る上で忘れてはならない象徴だと思う。

◆ 日本 大学生

外交部で聞いた日韓の共通課題への向き合い方からは、国と国との関係の複雑さを感じると同時に、互いに最も近い国だからこそ、他のどの国よりも深く協力できる可能性があることを実感した。歴史的な問題や感情の溝はすぐに埋められるものではないが、文化・経済・社会など多様な分野での交流が続く限り、相互理解は少しずつでも確実に進んでいくはずだと思う。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 韓国側受け入れ機関担当者

今年の大学生訪韓事業で一番重点を置いた点は「過去と現代の両国関係を振り返り、今後の未来に向かっていける機会を提供する」という点でした。そのため、地理的にも日本と一番近い都市であり、朝鮮通信使の歴史の現場であると同時に故李秀賢氏の故郷でもある釜山を訪問し、さまざまなプログラムを実施しました。移動距離が長く、多少疲労が見られる中でも笑顔で一生懸命、活動に参加する日本の学生の姿にやりがいを感じました。また、訪問先での講義や懇談時の質疑応答でも積極的に質問し、より良い日韓関係のために努力する姿が忘れられません。事業を通じて、韓国と日本の未来も明るいと考えるようになりました。

◆ 韓国側交流相手（学生）

交流日の朝、初めて会ったときと比較できないくらい日本の大学生と私たちが親しくなったことを感じました。短い時間ではありましたが、一緒にたくさんの経験をしたことによって、私たちは単なる交流プログラム参加者ではなく真の友達になりました。小さなことではありますが、私たちのように実際に出会い、コミュニケーションを取るという経験が両国関係に重要であると思いました。今回の交流はお互いの文化を理解し、友情を築く大切な経験であり、この縁を今後も繋げていきたいです。

◆ 韓国側交流相手（学生）

韓国と日本は近くて遠い国です。悲しい歴史がありながらも輝く未来を一緒に作っていく隣国でもあります。今回の訪韓団との交流は悲しい歴史を振り返りながらも一緒に今後の未来について話すことができる良い機会でした。さまざまな地域から集まった両国の学生はそれぞれの地域の特色や観光地を紹介し、今度は必ずそれぞれの故郷で会おうと約束しました。日韓両国間の未来志向的関係の重要性を実感しました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

 大韓民国歴史博物館の展示 オリエンテーションを済ませた後は、大韓民国歴史博物館を訪れました。展示を見るなかで、日本と韓国の時代を超えた繋がりを感じながらも、簡単ではない歴史問題の色濃さを強く意識しました。韓国では近代化や独立運動の歴史が特に詳しく紹介されており、そこには日本との関わりも多く登場します。ガイドの方の説明を聞きながら、「同じ歴史を見ても、国によって受け止め方が違う」という当たり前の事実を実感しました。歴史認識の違いを知ることは、「対立」ではなく「理解」への第一歩になるのだと思います。	
2025 年 10 月 10 日（note） 大韓民国歴史博物館を訪問しました。展示を見の中で日本と韓国の時代を超えた繋がりを感じながらも、簡単ではない歴史問題の色濃さを強く意識しました。韓国では近代化や独立運動の歴史が特に詳しく紹介されており、そこには日本との関わりも多く登場します。ガイドの方の説明を聞きながら、「同じ歴史を見ても、国によって受け止め方が違う」という当たり前の事実を実感しました。歴史認識の違いを知ることは、「対立」ではなく「理解」への第一歩になるのだと思います。	2025 年 10 月 12 日（Instagram） 日韓交流おまつりのブース運営を行いました。イベントで日韓両国の文化に触れる機会が多く、それぞれの文化の違いに気づくとともに、両国がこれまでこのような文化を絶やさず継承してきたことの素晴らしさを感じました。韓国語が話せず悔しい思いもしましたが、韓国の皆さんがブースで日本文化体験を楽しむ姿を見て、このような草の根の異文化交流が将来の良好な日韓関係構築のために大切であることを実感しました。韓国語を身につけて、韓国の皆さんとより深いつながりを作りたいと思います。

流を心がけるべきだと感じた。 ・ 日韓交流おまつりのブース運営を通じて多くの参加者や協力者と直接触れ合い、文化や価値観の違いを実感しながら交流することができた。また、高麗大学での交流では、大学生という立場で興味関心を共有し、互いに質問し合うことで、両国の生活や考え方、学びに対する姿勢など、様々なことをより深く知ることができた。こうした体験を通して、まさに単なる観光旅行では得られない「韓国の人々の生活や文化、考え方のリアル」を感じることができ、参加する価値の大きさを改めて実感した。 【アクション・プラン】 ・ 大学の広報課を通じて、訪韓団での体験を記事にして発信する。実際に参加して学んだ交流の価値や気づき、また活動の魅力を多くの人に伝えることを目指している。学内の学生だけでなく、学外の方々にも記事を読んでもらうことで、国際交流や訪韓団への関心を広め、同じような貴重な体験をしてみたいと思う人を増やす。 ・ 学内で新たにサークルを設立し、誰でも気軽に韓国語を学べる場を作ることが計画。ハングルの学習だけでなく、会話練習や実際の交流会も行い、韓国の知人と連携した交流の機会も設ける。	・ 歴史や領土などの問題はありますが、韓国の若い世代は未来志向で、これからの交流を求める人も多かったことが印象的だった。課題は多くあるが、私たち若い世代が日韓友好のために働きかけることの重要性を強く感じた。 ・ 韓国は韓屋カフェなどが多く、伝統と現代文化の融合を感じた。韓国では日本以上に人々が伝統文化を大切にしているように思ったので、そのような姿勢を尊敬するとともに私も日本の良い文化についてもっと知りたいと思った。 【アクション・プラン】 ・ 訪韓団での体験は渡韓中も Instagram で発信したが、これは訪韓団について知ってもらい興味を持ってもらうために非常に有効な手段であると考えた。そのため、今後は note というサイトを用いて訪韓団での体験を文字にまとめてより詳細に記録し、その意義について伝えていきたい。 ・ 大学四年生のうちに TOPIK 4 級を取得することを目指し、今後も韓国語の勉強に励みたい。 ・ 現在観光案内所でアルバイトをしているが、韓国人のお客様も多いので、日本に対し良い印象を持ってもらえるような接し方をしたい。また、国際交流を通じて「伝える姿勢」の重要性を実感したため、今後も心のこもった対応を心がけていきたい。
--	--

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金